

学校経営のポイント

“センター試験の実施”と報道への要望

若井 彌一

毎年実施されている大学入試センター試験（以下、「センター試験」と略）の実施日（1月14日・15日）が目前に迫ってきた。今年は、55万5,537人の受験が予想されているという。

受験生は夢達せられるか“本番前の冬の陣”

受験生は、このセンター試験の結果、〔自己採点〕を見て自分が進学希望している大学を最終的に絞り込んでいくので、第1関門として、手応えの感じられる結果を出したいと願う。

一方、センター試験の会場を提供し、試験の実施に協力している多くの各大学等では、無事故で終了できるようにと最大限の実施体制をもって備える。

受験生にとって、センター試験は、この試験を受けることを入学試験の前提条件として課している大学を目指す場合には、最終的本番の入試に挑む前の最大の公式試合のようなものである。

このようなわけで、センター試験を受験する予定の新規高等学校卒業予定者 43万9,713人であれ、既卒者 10万9,748人であれ、まずはセンター試験の関門を、自分なりに手応えのある得点（成績）で通過することが最大の課題となっている。

センター試験の志願者の内訳（出願資格別内訳）をみると、上記の高校等卒業見込み者と卒業者だけでなく、高専第3学年修了者 252人、外国の学校（12課程）修了者 158人、在外教育施設（高等課程）修了者 169人、専修学校高等課程修了者 52人等のほか、高等学校卒業程度認定試験合格者等 5,352人、大学の個別入学資格審査により認定を受けた者 75人が、比較的少数とはいえ志願していることがわかる（大学入試センター発表による）

卒業者だけでなく、これだけ多くの人々が、おそ

らくは志願大学入試を最終の到達目標として、本番前のセンター試験に臨む。センター試験は、制度的に強制する仕組みではなく、あくまでも各大学の個々の自主的判断を尊重しながら実施してきた結果である。

参加大学の変動は、今後ともあり得るわけであるが、参加大学数の増加は、センター試験という方法が多く大学にとって、利用（活用）価値のあるものとして定着してきていることを示していると評することができよう。

報道は受験生の熱意・達成感等を中心に

受験生にとっては、真剣勝負の感覚で2日間を終える。また、会場を提供し、センター試験の実施に協力している大学等の教職員にとっては、細心の注意と配慮をもって取り組む失敗の許されない一大行事である。試験問題の出題や採点の処理にかかわるセンターも「失敗は許されない」という思いは同様であろう。

これだけ大きな毎年の行事である。とりわけ、受験生である人々は、この試験を第1のステップとして、いくつかの大学を受験し、進学していくが、志ならず次年度をめざす者もいる。センター試験の報道も、受験生のこれまでの努力や願い、各大学等の配慮、センター関係者の苦勞が国民に伝わるものを中心に、と願う次第である。

むろん、センター試験の内容や実施方法については、今後も改良を加えていくことが必要と思われる。将来的に「生きて働く力」になる試験問題とは何かを、大学関係者も知恵を出し合わないといけな

（わかい・やいち = 上越教育大学長）

本紙は<http://www.kyouiku-kaihatu.co.jp>でも掲載

●最新刊好評発売！最新の行政調査結果・資料等に基づき初期対応から事後処理まで平易に解説！

改訂版 《ケーススタディ》教育法規

坂田 仰（日本女子大学教授）／河内祥子（福岡教育大学准教授）【共著】 A5判 224頁／定価 2520円

研修誌・図書の小社への直接注文は、無料 FAX 0120-462-488 をご利用ください（24時間受付・即日発送）